



福井県・金沢市の 新交通システムの取り組みについて

群馬県 県土整備部 都市計画課

1. はじめに

平成27年7月に新交通システムの取り組みに関して、福井県と金沢市の先進事例について現地視察調査に行きましたので、その概要を紹介いたします。

2. 福井県での取り組み

福井県で実施している「福井鉄道・えちぜん鉄道相互乗り入れ事業」は、全国で初めて、異なる事業者の軌道と鉄道区間の相互乗り入れを、LRV(※)の導入により実現させるというもので、福井鉄道福武線の越前武生駅からえちぜん鉄道三国芦原線鷺塚針原駅間において、LRV(※)の導入・運行、乗継拠点駅(田原町駅)の改良、鉄道区間(えちぜん鉄道)の低床ホーム整備、軌道区間(福井鉄道の一部区間)の電停の再配置などを行い、運行の高頻度化や定時性確保、バリアフリー化を図るものです。

現在は、LRV(※)3両2編成が福井鉄道福武線の田原町駅～越前武生駅間で運行中であり、平成27年度末には、当事業により、えちぜん鉄道の田原町駅～鷺塚針原駅間が延伸、LRV(※)も3両4編成と2両2編成で運行されることとなります。

平成28年度以降には、福井鉄道駅前線のJR福井駅西口広場への延伸、軌道区間の石畳改修、電停の改良、福井駅西口の屋根付き広場整備、中心市街地を歩行者天国にする『まちフェス』などのイベント開催が予定されていて、これらにより公共交通機関への転換誘導、都市景観のイメージアップ、歩行者優先の快適な歩行空間形成、駅前の活性化が期待されています。

※超低床車両：ライトレールビークル



3. 金沢市での取り組み

平成27年3月に新幹線が開通した金沢市では、新幹線の開業にあわせて、金沢駅周辺整備として、土地区画整理事業や市街地再開発事業、連続立体交差事業、金沢駅前広場整備などハード的整備のほか、歩行者と公共交通を優先する交通とまちづくりに取り組んできました。具体例としては「金沢市における歩けるまちづくりの推進に関する条例」、「金沢市における公共交通の利用の促進に関する条例」、「金沢市における自転車の安全な利用の促進に関する条例」の制定、コミュニティバス「金沢ふらっとバス」、公共レンタサイクル「まちのり」、「歩けるまちづくり協定」の締結(長町武家屋敷地区)、バス専用レーンの確保、マイカーの流入抑制とパーク＆ライド、バス停に案内看板設置等があります。また、金沢市では、現在、「第2次金沢交通戦略(平成28年度～34年)」の策定が進められていて、骨子(案)では、その基本的考え方として、これまでの「歩行者と公共交通優先のまちづくり」を継続させ、さらに「まちなかを核にネットワークでつなぐまちづくり」が新たに加えられています。そして、基本方針と主な施策に「新しい交通システム及び公共交通重要路線が基幹となる公共交通ネットワークの再構築」が位置づけられ、新しい交通システムの機種選定等は、今後、検討が予定されています。

